



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑬

心に響くニッポンの音色



東京葛飾R C
(第 2580 地区 東京都)

カウンセラー
岩田 吉弘 さん

彼女の情熱に心を動かされて

早いもので、コリーン・クリスティナさんのカウンセラーとなって、2年近くがたちました。当クラブでは、奨学生を受け入れる年度の米山記念奨学委員長がカウンセラーを務める慣習があり、当初は私の次の委員長が指名されたのですが、ご高齢で大変そうだったため、「私がやりましょう」と申し出ることにしました。以来、毎月の例会で食事をしながら話を聞くほか、クラブの行事や旅行、家族との食事会など、会うたびに親しみが増し、楽しい関係が続いています。私を含めて会員はみんな、親しみを込めて彼女をクリスティナと呼んでいます。

当クラブの例会場は上野恩賜公園の中であり、東京藝術大学のキャンパスとは目と鼻の先になります。彼女はそこで、日本の伝統的な音楽である長唄と三味線を、非常

に熱心に研究しています。われわれでさえ、あまりなじみのない三味線に情熱を傾け、自ら演奏や作曲もする彼女からは「日本の文化を知りたい」という強い意欲が感じられて、できる限り応援して

創立五〇周年記念式典で演奏するクリスティナさん



あげたい気持ちになります。それは会員だけでなく、クラブの行事などを通じて仲良くなったわれわれの家族も同じであり、うちの家内も、古典芸能を見に行くのに付き合ったり、クラブの創立50周年記念式典で演奏した際には娘の着物を着せたりと、実の娘のように世話を焼いて楽しんでいます。

日本の伝統を見直すきっかけに

みんなが彼女に親しみを感じ、応援しようと思うのは、2年間の奨学期間で、じっくり交流ができたからかもしれません。また、毎月の第一例会で奨学金を受け取ると、「皆さんのおかげで一生懸命勉強しています」と必ず感謝の言葉を伝えてくれるので、自然と、みんなで育てていくのだという気持ちが湧いてくるのだと思います。

彼女との交流を通じて、われわれも日本の伝統的な音楽に親しむ機会が増え、あらためてその良さを見直すきっかけにもなりました。クラブの懇親会で料亭に連れて行った時は、本物の芸者を見て、彼女はとても感激していました。「ぜひ合わせてみたい」と、芸者から三味線を借りて彼女が演奏し、芸者がそれに唄で合わせ、二人で長唄の「越後獅子」を披露してくれました。全員、拍手喝采でした。アメリカ人の彼女に、われわれのほうが日本文化の素晴らしさを教わったように思います。

いつまでも記憶に残る奨学生

カウンセラーの私にとってはもちろんですが、クラブのみんなにとって、クリスティナは印象深く、いつまでも記憶に残る奨学生になることでしょう。

彼女は伝統に自分らしい感性を加え、新しい文化を確立しようと挑戦していて、今後もその成長や成果を見るのが楽しみです。4月下旬の演奏会で、彼女が作曲した三味線の協奏曲が披露されるようなので、まずはクラブを挙げて聞きに行きたいと思っています。彼女が日本で認められるような成果が挙げられるよう、これからも見守り、応援していきたいと思っています。

3月、多くの米山奨学生が奨学期間を終えて、新しいステージに向かいます。人生の中のたった1～2年ですが、奨学生にとって、ロータリアンにとっても忘れられない思い出が刻まれたことでしょう。そうした奨学生たちにエールを送る意味で、今回はカウンセラーの岩田吉弘さんと、シュムコー、コリーン・クリスティナさんから話を聞きました。長唄と三味線を研究する彼女の活躍を、世話クラブの会員全員が温かく見守り、応援しています。



米山奨学生

シュムコー、コリーン・クリスティナさん

出身：アメリカ

奨学期間：2014 - 16

学校名：東京藝術大学大学院

ありのまま受け入れてくれる家族

この2年の間、東京葛飾ロータリークラブの皆さんには、言葉に表せないほど感謝しています。岩田さん夫妻をはじめ、会員の皆さんと奥さんたちには、とても良くしてもらいました。私にとって何が大事かを理解して、いろいろな行事に誘ってくれたり、人を紹介してくれたり、なかなかできない経験をさせてもらいました。忙しくて例会に行くのをおっくうに感じる日もありましたが、行けば温かい笑顔に迎えられ、話を聞いてもらってリラックスし、気持ちをリセットして、また研究に集中することができました。

いつも私のことを心配してくれて、何かあれば助けてくれる人がそばにいることは、大きな安心でした。今では皆さんのことを、ありのままの私を受け入れてくれる家族のように思っています。これまでのように会えなくなると思うと、涙が出るほど寂しいです。

さまざまな民族音楽の価値を伝える

これからも折々には皆さんと会いたいですし、自分の成果を見てもらいたいと思います。実は今年、私が作曲した三味線のための作品を集め、CDをリリースする予定です。その中にはロータリーの影響を受けて作った曲もあります。クラブの懇親会で芸者さんと即興でコラボレーション演奏をした時、その場の雰囲気にとっても感動し、琴と三味線と唄の曲を作りました。少し端唄っぽい、きれいな曲ですので、ぜひ多くの人に聞いていただきたいと思います。

今、世界は西洋音楽で占められていて、日本だけではなく、多くの国で伝統的な音楽の価値が理解されていません。三味線も、実は時代に合わせて変わり続けていますが、聞く機会がないので、みんな知らないのです。私の目下の目標は卒業ですが、将来はいろいろな国の研究者と協力してワークショップを開き、さまざまな民族音楽の価値を伝えていきたいと思っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



台湾米山学友会の新理事長が決定！

12月19日、台湾米山学友会(中華民国扶輪米山会)の総会が台北で開催され、学友・来賓の約100人が出席しました。3年に1度の役員改選では、投票の結果、第7代理事長として呉憲璋氏(1986 - 87 / 東京原宿RC)が選任されました。呉氏は台湾の刑務所改革に尽力。全国の刑務所・矯正施設を統括する法務部矯正署の初代署長としての重責を果たし、定年退職後の現在、法務部顧問、国立交通大学兼任講師を務めています。幹事長には張逸嵐氏(1997 - 98 / 杵築RC)の続投が決まったほか、常務理事4人、理事12人、常務監事1人、監事4人が選任されました。新体制となった学友会の、さらなる活躍が期待されます。



新理事長の呉氏(右端)と歴代理事長たち